

## 「パンデミック」の解説 pandemic

日本大百科全書(ニッポニカ)

感染症が世界的規模で流行すること。「感染爆発」(アウトブレイク)が長期間に多数の国、地域で連続的に起きる場合をいう。世界保健機関(WHO)は感染症の警戒レベル(フェーズ)を6段階に分け、各国に対策の目安を示しているが、それによるとパンデミックは、最大警戒レベル「フェーズ6」に相当する。これは世界6地域(日本を含む西太平洋、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、中東、東南アジア)の一つで集団発生した後、他地域でも集団発生した場合、規模を勘案して判定する。2002~2003年の新型肺炎SARS(サーズ)(重症急性呼吸器症候群)は西太平洋(中国、ベトナムなど)とアメリカ(カナダ)で集団発生したが、規模などからパンデミックとはされなかった。

歴史的なパンデミックは14世紀ヨーロッパのペスト、19世紀のコレラ、1918~19年のスペインかぜ(ブタインフルエンザ)などである。ペストはもともとネズミなど齧歯(げっし)類の流行病であり、ネズミに寄生するノミなどの媒介によってヒトに感染する。菌が血液中に増加する敗血症で発熱、悪寒、痛みがひどく、死亡率は高い。皮膚は黒ずみ、黒死病とよばれた。また一部タイプは肺炎を起こし、咳(せき)から大量の菌が周囲に拡散し、感染を広げる。14世紀なかばから末までのヨーロッパの流行は死者2000万人から3000万人で人口の半分近くに達したといわれている。ペストは6世紀と19世紀にもパンデミックがあった。

コレラはやや小規模だが19世紀から7回のパンデミックが起きている。コレラ菌が水や食品を汚染し、集団発生する。激しい下痢、脱水症状で死亡する。江戸時代には日本でも大流行したが、コッホによるコレラ菌の発見で下火になった。とはいえアフリカでは現在も流行している。

インフルエンザは飛沫(ひまつ)・空気感染のため、感染力はペストやコレラを上回る。第一次世界大戦中のスペインかぜが近年では最大、最強のパンデミックだった。スペインかぜはブタインフルエンザ(H1N1型)が人間への感染力を獲得したものとされ、6億人がかかり、死者4000万人といわれる。日本でも2500万人が感染し、40万人が亡くなった。

2009年4月に発生した「新型インフルエンザ」(ブタインフルエンザ)は、メキシコからアメリ

カ、ヨーロッパ、オーストラリアなどに広がり、WHO は 6 月 11 日、「フェーズ 6」を宣言した(2009 年 11 月 22 日現在、207 以上の国・自治領・地域で、感染者 62 万 2482 例以上、死亡者 7826 例以上。毒性は通常のインフルエンザ並み)。なお、1997 年に香港から小規模の感染が始まった強毒タイプのトリインフルエンザ(H5N1)のパンデミックが、依然として世界中で恐れられている。

## エンデミック、エピデミック endemic, epidemic

国際保健用語集

エンデミックとエピデミックはどちらも「流行・地方流行」などと訳されることが多いが、明確に区別しなくてはならない。感染症のエンデミックは一定の地域に一定の罹患率で、または一定の季節的周期で繰り返される常在的な状況である。特定の地域に強く限定される場合は「風土病」と呼ぶ。

一方のエピデミックは一定の地域にある種の感染症が通常の期待値を超えて罹患する、またはこれまでは流行がなかった地域に感染症がみられる予期せぬ状況で、一定の期間に限られた現象である。エンデミックは予測することができるが、エピデミックでは予測は困難である。エピデミックの規模が大きくなった状況を outbreak と呼び、エピデミックが同時期に世界の複数の地域で発生することをパンデミック：pandemic と呼ぶ。

エンデミック、エピデミック、パンデミックの使い分けは感染症の種類や通例によって厳密ではない。デング熱では、周期的(典型的には 4 年周期)に出現するデング熱の流行をエピデミックとして、流行が一層進行し毎年デング熱が流行している状況、さらに通年的に流行している状況をエンデミックとする。通常の感染症対策はエンデミックに対して対策法を計画する。エピデミックは予期せぬ流行であるため対策は一層困難である。

エンデミックと同様に前もって対応を準備するだけでなく、エピデミックでは予想される流行にインパクトを軽減(減災)する対策やエピデミックを予知する、または迅速にエピデミックを判断する方策を開発しなくてはならない。